

そごう広島店前で「防災の日」街頭啓発活動を実施

～関東大震災から100年 地震保険の普及を訴えチラシ等を配布～

日本損害保険協会中国支部(委員長:毛利吉成・あいおいニッセイ同和損害保険株式会社 執行役員中国本部長)では、広島県損害保険代理業協会(会長:井手秀樹)と連携して、関東大震災から100年を迎える9月1日「防災の日」にそごう広島店前で防災意識の向上および地震保険の普及を呼びかける街頭啓発活動を実施しました。

南海トラフ巨大地震が発生した場合、広島県では沿岸地域を中心に震度6強の地震発生の可能性があります(「広島県地震被害想定調査報告書」(平成25年10月))。また、近年は大規模な地震や大雨などの自然災害が多発しており、平時から災害への備えをしっかりとしておく必要があります。

当日は、毛利委員長、井手会長をはじめ損害保険関係者10人が集まり、地震災害に備える防災のポイントをまとめたクリアファイル、広島県の地震災害リスクと地震保険の概要を説明した啓発チラシおよび自然災害に便乗した住宅修理サービストラブル注意喚起チラシなどを配布して、地震保険への加入や災害への備えの大切さを訴えました。

当支部では、引き続き、地震保険の理解促進および加入促進に関する取組みを推進してまいります。



街頭啓発活動をする毛利委員長(右)



街頭啓発活動をする井手会長(左)



街頭啓発活動の様子



配布したノベルティ

<地震保険啓発チラシ(広島版)>

https://www.sonpo.or.jp/news/branch/chugoku/2023/pdf/2309_chirashi.pdf